

グループホーム菜の花園

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0970102356		
法人名	医療法人社団豊和会		
事業所名	グループホーム菜の花園		
所在地	栃木県宇都宮市平出町1666-1 (電話) 028-660-7564		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年2月3日	評価確定日	平成22年3月8日

【情報提供票より】(平成22年1月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	15人	常勤14人(うち13人兼務), 非常勤1人, 常勤換算14.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分		
------	-----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代—実費 ・共益費—5,000円 ・教養娯楽費—100円/日 ・おむつ—家族持参 ・水道光熱費—20,000円 ・布団リース代—110円/日 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	入居金の返金なし	
食材料費	朝食	410円	昼食	610円
	夕食	510円	おやつ	昼食代に含む
	または1日当たり			円

(4) 利用者の概要(平成22年1月19日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2		2名	
要介護3	4名	要介護4		1名	
要介護5	1名	要支援2		名	
年齢	平均 87歳	最低	80歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都宮東病院, 藤井脳神経外科, 新直井病院, 長谷川歯科, 石川外科, 村田整形外科, みやの杜クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、平成15年に家族の介護を経験した法人理事の思いのもとに開設されたホームである。入居者がどうしたら楽しく過ごしてもらえるかということを中心に考え、職員は入居者と共に歩むという姿勢で支援にあたっており、入居者は穏やかな笑顔で過ごしている。また、自治会や地域の行事にはできるだけ参加し、近隣幼稚園児やボランティアを事業所に招く等、地域との関わりを積極的に持ち、地域への理解と協力を働きかけている。リビングは庭へ出られる大きな履き出し窓があり、庭に植えられた花や野菜を一望できる等、季節感が感じられる造りになっている。同じ敷地内には、庭を取り囲むようにしてデイサービスセンターと小規模多機能型居宅介護事業所も併設されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は職員間で話し合い、地域への働きかけを続けることで、管理者はホームの認知度が以前よりも高くなり、運営推進会議への地域からの参加者も徐々に増えてきたと感じており、改善に向けた取り組みに活かしている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、全職員中の7割程度から提出された意見を管理者が集約し、まとめている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3ヶ月に1度、敷地内にある小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。地域からの理解や支援が得られるよう、自治会長、老人会長、地域包括支援センター職員、防災福祉ネットワーク等の地域の方々にも参加をしてもらっている。今後は2ヶ月に1度の開催を計画しており、入居者や家族にも参加をしてもらい、運営推進会議を充実したものにして行きたいと考えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族へは、来所時等に意見や要望等を出してもらえる様、声かけを行っている。また、ホーム内には意見箱を設置しているが、今までに意見が寄せられた事はない。管理者は家族からの意見や要望等を事業所におけるサービス向上に役立てたいと考えており、活動が消極的になってきた家族会を盛り立てていく予定である。</p>
	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、地域での消防訓練や地区市民センターで行うコンサート等の地域行事にはできるだけ参加するよう努めている。近隣の幼稚園児や生け花や習字のボランティアをホームに招く等、地域との関わりを積極的に持っている。また、野菜や事業所の行事で使用する竹等を農家の方から提供してもらっている他、散歩で近隣住民と挨拶をかわす等、地域との交流が行われている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の基本理念を作り上げている他、6項目の介護方針と職員として大切にすることを明記した介護心得も定めている。理念や方針は入居者のニーズや状態の変化等によって見直しを行い、変更を加えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示されており、介護心得等は全職員に配付している。また、月2回のカンファレンス時に、日々の入居者への支援方法等について協議しており、理念に立ち返り支援方針の共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域での消防訓練や地区市民センターで行うコンサート等の地域行事にはできるだけ参加するよう努めている。近隣の幼稚園児や生け花や習字のボランティアをホームに招く等、地域との関わりを積極的に持っている。また、野菜や事業所の行事で使用する竹等を農家の方から提供してもらっている他、散歩で近隣住民と挨拶をかわす等、地域との交流が行われている。	○	地域との支えあいの大切さを職員が理解し、日ごろから地域と交流することに努めていることから、今後も引き続き、地域への働きかけを行い、地域住民が気軽に立ち寄れるホームとなるような取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は職員間で話し合い、地域への働きかけを続けることで、管理者はホームの認知度が以前よりも高くなり、運営推進会議への地域からの参加者も徐々に増えてきたと感じており、改善に向けた取り組みに活かしている。今回の自己評価は、全職員の7割程度から提出された意見を管理者が集約し、まとめている。	○	自己評価は自分たちの支援等の気付きや振り返りの機会となるため、今後は評価の意義やねらいを話し合い、全職員で自己評価に取り組むことを期待したい。また、評価結果についても運営推進会議等にも報告を行い、参加者から助言や意見等を出してもらいたい。

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1度、敷地内にある小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。地域からの理解や支援が得られるよう、自治会長、老人会長、地域包括支援センター職員、防災福祉ネットワーク等の地域の方々にも参加をしてもらっている。今後は2ヶ月に1度の開催を計画しており、入居者や家族にも参加をしてもらい、運営推進会議を充実したものにして行きたいと考えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員とは、制度上の書類の書き方や運営状況の課題等、分からないことはその都度、電話で聞くように心がけており、情報の共有ができるように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への入居者のホームでの暮らしぶりや健康状態等の報告は、家族の来所時に報告をしている他、請求書送付時に不定期であるが個々に合わせた写真等も配付している。また、入居者の体調等に変化があった際には、電話ですぐに報告するようにしている。金銭の管理状況はおこづかい帳の写しを渡している他、職員の離職等もその都度、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは、来所時等に意見や要望等を出してもらえる様、声かけを行っている。また、ホーム内には意見箱を設置しているが、今までに意見が寄せられた事はない。管理者は家族からの意見や要望等を事業所におけるサービス向上に役立てたいと考えており、活動が消極的になってきた家族会を盛り立てていく予定である。	○	家族からの意見や要望等を的確に把握することは、事業所のサービス向上はもちろん、苦情に発展する前の問題解決にもつながることから、事業所の行事に併せて家族会を開催する等、入居者家族同士が話し合って意見が表せる機会を増やしていくことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職で担当職員が代わる際には、入居者各々の状況に合わせて伝える時期を変える等の配慮に努めている。また、離職の際のダメージを最小限に抑えられるよう、入居者1名に対して職員2名で担当している。異動においては、同敷地内にある小規模多機能ホームとの兼務で他所への異動はないが、職員を専任にしてきめ細やかな対応が出来るよう職員の増員を検討中である。		

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数に応じて研修が受けられるようにしており、県内に限らず県外の研修でも必要な研修があれば職員を参加させている。また、事務所に研修等の開催案内を掲示するなどの情報提供を行い、参加希望者がいる場合には勤務時間等配慮している。	○	研修参加後は研修資料をファイルに綴って閲覧できるようにしているが、今後は一人ひとりの研修の機会を全職員が共有できるような発表の場を設ける等、技術や知識の情報共有ができる様な取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国及び県のグループホーム協会に加入しており、会合や研修等で知り合いになったホームとの相互訪問や事業所の安全対策について情報交換を行う等、同業者との交流をとおしてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の申込みがあった際には、担当者が自宅等に訪問して面談を行い、本人や家族から要望や不安を聞き取る他、ホームでの暮らしぶりを伝えている。また、入居の前には、ホームで過ごしてもらったうえで入居を決めてもらう事を勧めており、空き部屋がある場合には体験宿泊を実施したこともあり、徐々にホームに馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から調理方法や裁縫の短くなった糸を結ぶ方法等、日常生活の中から教えてもらうことも多い。また、そういう場面が持てるよう役割をお願いしたり、レクリエーションを行い、声かけや場面づくりの工夫を行う等、共に過ごし支えあう関係を築いている。		

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向の把握については、これまでの暮らしぶりや日々のかかわりの中から意向の把握に努めている。意思表示が困難な場合には、家族からの助言や日々の生活の中での様子等をみながら本人本位となるよう検討し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が本人から思いや要望を聞き、どうしたら楽しく過ごしてもらえるかということを大切に考え、全職員でカンファレンスを行い、より良く暮らすための介護計画を作成している。例えば、詩吟の好きな方には「一日一回はリビングでみんなに詩吟を聞いてもらう」というサービス内容を盛り込んで介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度、定期的な見直しを行っている。入居者の状態に変化があった場合には、家族に報告を行い、医師等の関係者とも相談している。状態に即した見直しも行っており、毎日の申し送り等で職員間での情報の共有を図っている。また、個人記録へサービス内容を記入する等、日々の支援でも確認がすぐ行えるように書類の記入方法に工夫をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の急な通院や家族の通院付き添いが困難な場合は、職員が対応する等、出来るだけ本人や家族の要望に応えられるよう支援している。早番、日勤、夜勤等の他、シフト上可能であれば管理者が自由に動ける勤務日をつくり、臨機応変に対応できるようにしている。		

グループホーム菜の花園


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の馴染みのかかりつけ医で受診できるよう支援している。受診の付添いは家族にお願いしているが、その際、本人の状態を職員から家族に伝え、必要な時は医師への連絡事項を書面で渡す等、適切な医療が受けられるよう支援している。受診後も家族から受診内容を確認し、情報の共有に努めている。また、当法人の理事長が医師であり状況に応じて往診も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは、現時点で重度化や終末期を支えていくことは難しいという方針を職員間で共有しており、入居者や家族にもその方針を説明している。また、入居者の状態に変化があった際には、早い時期から家族と相談を行い、ホームで対応できない場合の対応方法や他利用可能な施設の情報を伝えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者一人ひとりに対してかける言葉を選び、誇りを損ねたり勘違いのないよう心がけている。親しみやすい口調であるが、赤ちゃん言葉は使わず、その人らしさを大切にして、声かけや対応に配慮している。個人記録等の個人情報は事務スペースの適切な場所にて保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは一日の大まかな流れはあるが、担当職員が入居者のその日その時の希望を尋ねたり、相談しながら希望にそって過ごしてもらえよう支援している。起床時間が遅い入居者には、部屋で食事をしてもらったり、家族と外食を楽しむ等、利用者のペースや気持ちを尊重した支援を心がけている。		

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は野菜の皮むきやみそ汁を職員と一緒に調理したり、食事の準備や後片付けも一緒に行っている。職員は入居者と並んで会話を楽しみながら、同じものを食べている。先日もしもつかれを共に調理した他、外食や季節の行事食も取り入れている。訪問日は入居者の誕生日ということもあり、昼食に外注のカツ弁当と3時のおやつは職員が作ったチーズケーキが振舞われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に合わせた入浴を支援しており、毎日でも入浴できるようになっている。その日の希望を確認しながら無理強いせず入浴してもらっており、時には仲の良い方同士で入ったり、家族と一緒に入浴することもある。以前は夜の入浴も行っていたが、現在は個別対応が増えたことから日中のみ入浴となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の掃除では車イスの方にも手すりふきを任せたり、庭の草むしりはこの方にと、一人ひとりの要望や適した作業に合わせて役割を持ってもらい、自分で出来る事は出来るだけ自分でしてもらうよう支援をしている。また、利用者の誕生日には担当職員が趣向を凝らした誕生会を開いたり、習字や活け花のボランティアに指導をお願いしたり、遠出の外出や外食に出かける等、楽しみごとや気晴らしの支援ができるよう工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い時にはホームの敷地内の散歩や職員と一緒に近所のコンビニへおやつを買いに行く等、常に外出できるよう支援している。月1回は季節に合わせて花見や落葉狩り等の行事を実施しており、外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより、ホームの玄関や各居室等に施錠はしていないが、門扉は施錠されていた。	○	ホーム内の施錠は行われていないが、家族や地域に開かれた施設という観点から、入居者の安全にも配慮しながら、今後、門扉の施錠についても検討していく取り組みにも期待したい。

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応マニュアルを作成し、消防署の協力を得て入居者と共に年2回消防訓練を実施している。夜間時を想定した訓練や、他事業所が消防訓練を行う際には見学に出かけている。地域との協力体制については不十分と考えており、自治会長へ協力をお願いしている他、運営推進会議でも地域からの協力を呼びかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は宅配業者から毎日届けられており、カロリーや栄養バランスが考えられた物となっている。食事や水分の摂取量の把握に努め、食事の味付けや飲み物の好み等も一人ひとりに合わせて提供している。かかりつけ医から高カロリー補助食品を出されている入居者へも、それだけに頼らず、個別に盛り付けを変えたり、食べやすくする等して工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには庭へ出られる大きな履き出し窓があり、明るい光が差し込み、庭に植えられた花や野菜を眺められる等、季節感を感じることができる。リビング兼食堂には食事用のテーブルの他、テレビとソファが置かれており、複数の入居者がいても心地よく過ごせるよう家具の配置を工夫している。共用空間には床暖房が敷設されており、加湿器を置き温度や湿度に配慮している。廊下、浴室、トイレ等は手すりが付けられている他、トイレは入居者のニーズに合わせて、リネン室を改装し増設している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には家族の協力もあり、本人が使い慣れた馴染みのベッドやドレッサー等が持ち込まれている。遠方からの入居等で持ち込みの少ない方もいるが、写真や生け花、好みのカレンダーを飾る等、その人らしい居室づくりとなるよう支援している。洗面台と戸棚、押入れは備え付けとなっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。